

調査報告(藤村陸氏からの提訴内容に関して)

2014年4月29日

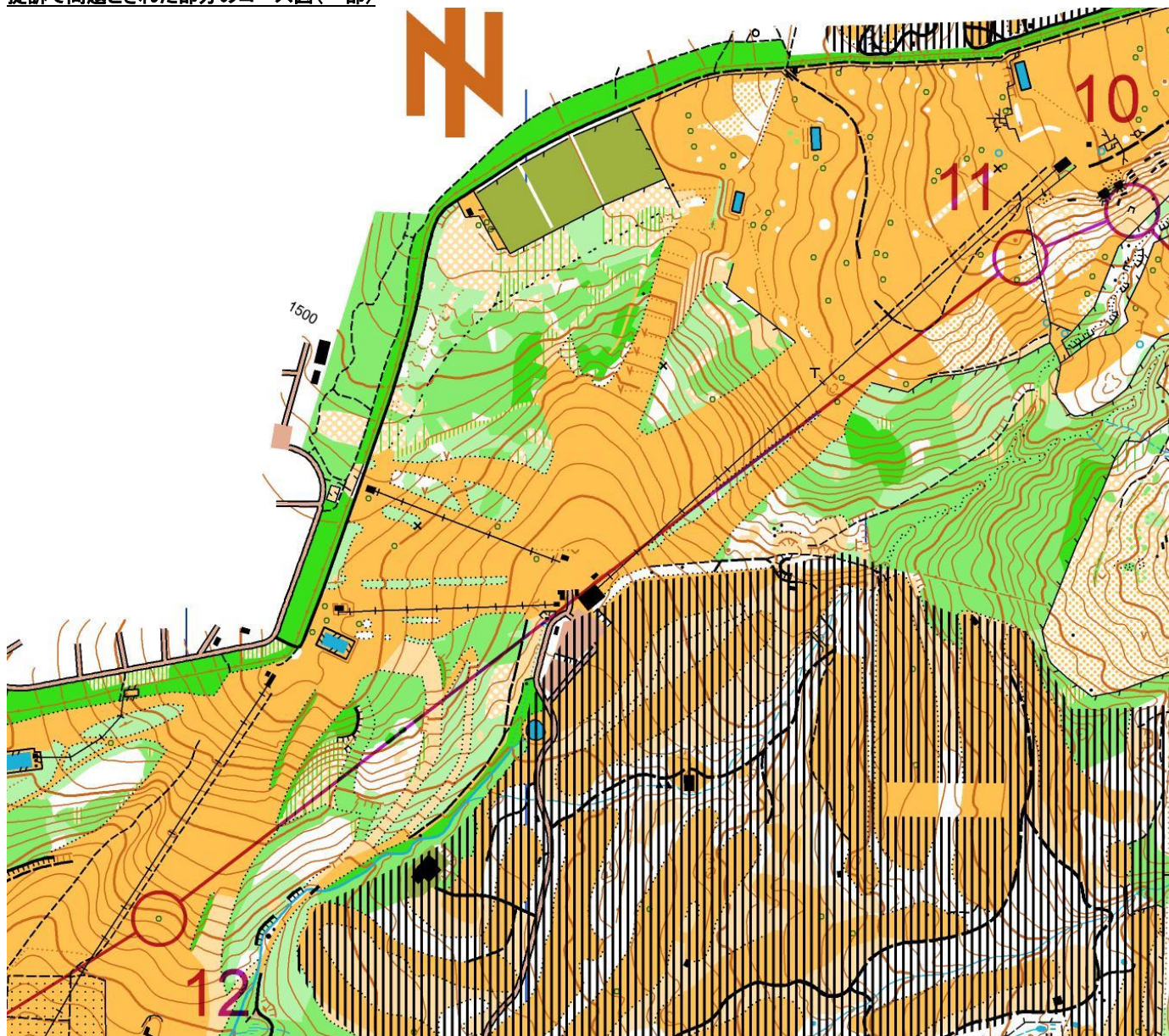
木村佳司

第40回全日本オリエンテーリング大会 競技責任者

要旨

- ・OCADデータを調査したところ、林の中にあつた黒のドット群は、「不明瞭な小径」のオブジェクトであつた。
- ・たとえ不明瞭でも小径と呼べるものは現地にはなかつた。
- ・スキーの連絡コースの痕跡が僅かに残つていた。ただしその痕跡を辿るのはかなり困難である。

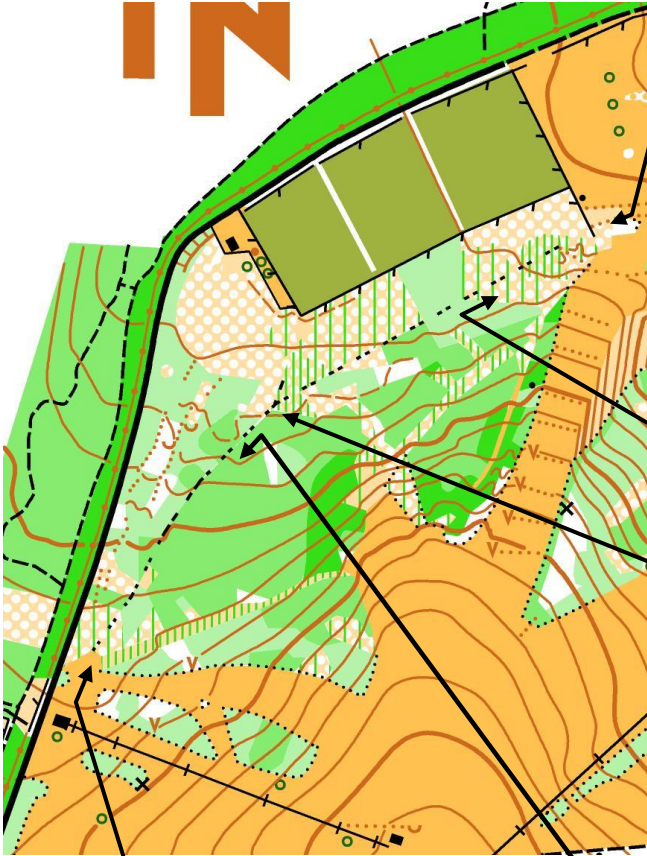
提訴で問題とされた部分のコース図(一部)



詳細

4月28日 11:00-12:00 現地を調査した。

メンバー：木村佳司、美谷島孝、倉澤勝美、鈴木慎一郎（すべて長野県オリエンテーリング協会）



不明瞭な
小径の入口。
手前は溝。
僅かに森の
切れ目がある。
とても分かりにくい。



スキートの迂回コース
の痕跡のようだ
20年以上前に廃棄され
たとみられる。
もはや道ではない。
このあたりは無理す
れば走れる。



放置された道標がある。
不明瞭な道の分岐あたり
ここから100mほどの間に
5本程度の放置道標が立っていた。
ここから南東に200mはヤブコギ
通行可能度は歩行可能(Cヤブ)
痕跡は地表面にしかなく
ササの丈は胸までである。
道標に沿っていったが道はなかった
GPS軌跡を見ると不明瞭な小径から
は外れていったようだ。



南側から50m程度はスキー連絡コースの
痕跡がはっきりある。通り易い。



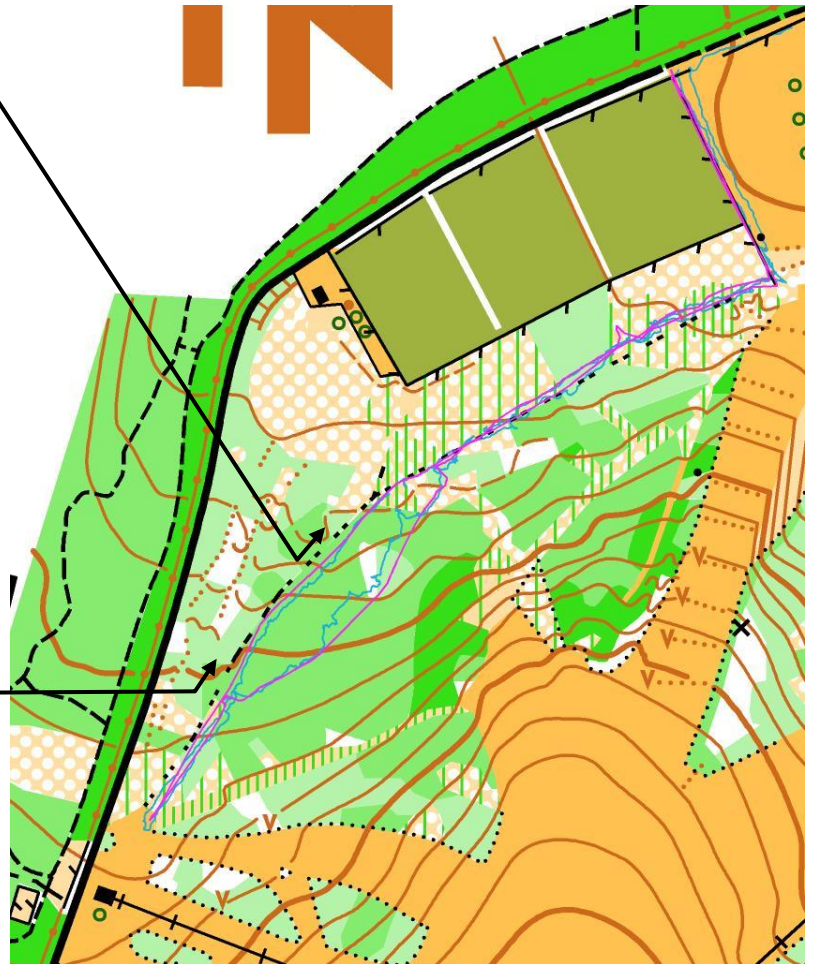
このあたり、
道と呼べるものは
全く無い。



調査の復路で小径跡を見つけてこれを辿った。
地表面の傾きと、上部が開けていることから、20年以上昔にスキーマの迂回路であった痕跡が残っていた。
笹が生えていて、歩行がやっと可能。
あとでGPS軌跡を見て、地図上の不明瞭な小径上を辿っていたことが判明した。



調査の復路で小径跡を見つけてこれを辿った。
部分的にササが少なくなっているところは小径跡らしく見える。そんな箇所は全部で30mくらい。それ以外はササが胸まである。



地図にGPS移動記録を重ねて表現した。(2014年4月28日記録)

紫色線: 木村佳司 (機材 EPSON SF-510)

青線: 倉澤勝美 (機材 Garmin Forerunner310)

(報告以上)